

都築重次さん追悼

分子研が大変お世話になった都築重次さんの思い出は尽きません。昭和50年（1975年）4月に分子研が創設されましたが、集合したメンバーはほとんどよそ者でした。都築さんは旧愛知教育大学岡崎校に勤務しておられた関係でキャンパスを知悉しておられましたので、大いに助けられました。私が最初にお会いしたのはその年の夏でしたが、長い間荒れ果てたキャンパスがよみがえって新研究所が建設されるのを大いに喜んでおられました。まず、キャンパスの整備が大変でした。会計課の一員として、膨大な敷地内の草刈り、危険箇所の整備、民間の土地との区画の再確認などがあり、文字通り汗まみれ泥まみれになって活躍されました。当時、キャンパスにはホタルや雉がいること、タラの芽や自然薯のある場所も教えてくれました。赴任はしたけれど、まだ実験装置も無かった中で、我々の素晴らしいグラウンドとなりました。



都築さん：井口先生機構長退官の送別会で
（平成7年3月14日）

都築さんの当初の主な任務は車両掛（運転手さん）でした。大きな身体をかがませて黒塗の乗用車をびかびかに磨くことに誇りを持って居られました。我々にはいつもにこやかでした。研究棟の前に今も桜の樹がありますが、ある時、新任教授がちょっとした近道をするたびに、その枝に頭をぶつけるので、「切ってしまえ」と言いましたが、都築さんの言葉「桜切るバカ、梅切らぬバカ」で一件落着きました。研究以外のことしか知らない研究者へのキャンパスでの指南役でした。長きに亘って、分子研とそのキャンパスを心から愛して来られた都築さんのご冥福を祈ります。

（吉原 経太郎 記）

3月26日の夕方、都築さんにお話したいことがありご自宅にお電話をしたところ、その日の朝にお亡くなりになったと知りました。あまりにも突然のことすぎて悲しみで言葉になりませんでした。奥様のお話によると分子研には連絡しないでおこうと思っていちゃったとのことでしたが、私は都築さんが知らせてくださったのだと思えない不思議な縁を感じました。

私が都築さんと初めてお会いしたのは平成元年4月です。それは都築さんが勤務していた管理局（現事務センター）を3月末で定年退職された後、分子研受付に移られたときでした。私も平成元年4月採用で初出勤日に不安で一杯だった私に、とても優しく声をかけてくださったお姿が昨日のように思い出されます。

都築さんは研究所をとっても大切に思われていて、心から尽くしていちゃいました。研究所の歩んできた歴史に詳しく、また多方面に精通している方で、特に花や樹への知識と愛情を深く持っていちゃいました。また、都築さんが所有している「都築荘」というアパートに住んでいた学生さんや研究者の方々を、公私にわたりお世話していたと伺っています。特に、当時、他の大家さんでは対応が難しかった外国人を、分子研のために積極的に受け入れて下さっていました。都築さんの何に対しても真摯に取り組む姿勢が、先生方や秘書の方を始め多くの人々からの信頼につながっていたと思います。私も心を込めて仕事をするという心構えを教わりました。

分子研を平成10年3月末に退職されましたが、その後も研究所内の樹木を気にかけて折に触れ見にいちゃっていました。都築さんに出会って一緒に仕事をさせていただいたことに感謝しています。どうぞ安らかに眠りください。

（杉山 加余子 記）